

牡鹿半島についての雑記事



牡鹿半島（おしかはんとう）は宮城県北東部にある半島で天然の良港を形成しており「女川」「石巻」等日本有数の漁港が菜を連ねている。

暖流と寒流が交わるこの海域は豊富な魚種が数多く水揚げされる。この地域の「鮎川」はかつて日本有数の捕鯨基地としても栄えていた。

また、地元では、こんな歴史にも関係する地域としても知られている。

「仙台藩主伊達政宗が 1613 年 10 月 28 日、支倉常長ら一行をスペイン、ローマへと派遣した（慶長遣欧使節）。一行は幕府も認めた正式な外交使節団だった。

使節の目的は、スペイン国王に会いメキシコとの直接貿易の許可を得ることと、ローマ教皇に会い仙台領内での布教のたえ宣教師の派遣をお願いすることだった。

一行は現在の宮城県石巻市にある月ノ浦を 1613 年 10 月 28 日に出航し、スペイン、ローマに向かった。

その翌年の 10 月 5 日。

常長はスペイン国王とローマ教皇に謁見するが、スペインとの交渉は実らなかった。」

伊達な郷土料理と原始焼

牡鹿半島仙台駅前店

おしかはんとうえきまえてん